

8月の 事務ごよみ

経理 税務

●年度後半に向けての資金繰り対策の確認

8月は夏休みや旧盆などの影響もあり、一般には営業活動は低調な時期です。その一方で、夏物商戦の仕入代金の決済時期に当たるなど、支出は例月並み以上になることが多いため、資金繰りがタイトになりがちです。どこから、いつ、いくらのお金があるかをしっかりと確認して、資金繰り計画を立てる必要があります。

なお、3月決算の企業では10月から年度後半に入ります。下期の売上・利益計画、資金計画の進捗状況や計画との乖離をチェックし、早めに対策を練りたいところです。

●12月決算法人の中間申告と納税

8月は、12月決算法人の中間申告・納税月です（申告期限は8月31日）。中間申告には、前年度の確定法人税額の2分の1を納税する「予定申告」と、期首から6か月間（上半期）の利益・損失に基づいて納税額を計算する「仮決算」の2つの方法があります。どちらを選ぶかは企業に委ねられて

いますが、一般的には、上半期の実績が前年同期と同様であれば予定申告を、著しく悪化している場合は仮決算を選ぶようです。事務負担なども考慮して自社に適した方法を選びましょう（ただし、納税額によっては、予定申告に限定される場合もあります）。

新型コロナウイルス感染症の影響により、期限までに中間申告書を提出することが困難な場合は、納税地を管轄する税務署長に「災害による申告、納付等の期限延長申請書」を提出すれば、税務署長が指定した日（災害その他やむを得ない理由がやんだ日から2か月以内）まで期限が延長されます。

中間申告書を提出することが困難な状態が、確定申告書の提出期限まで続く場合には、その中間申告書の提出は不要となります。確定申告書を提出する際に、「災害による申告、納付等の期限延長申請書」を作成し、併せて提出します。

なお、中間申告書の提出がなく、その提出期限に提出があったとみなされた後でも、新型コロナウイルスを理由とする提出期限の延長は可能とされています。

●夏祭りへの寄附などの処理

8月は、各地で夏祭りや納涼イベントが催されます。ことしは新型コロナウイルス

ウィルスの影響もあり、例年どおりというわけにはいかないでしょうが、規模を縮小したり、オンラインを利用して行なったりするケースもあります。地域密着型の企業では、参加する機会もあるでしょう。

会社が提供する社名入りのうちわやタオル、手拭いなどは、原則として広告宣伝費となりますが、現金の寄附や人員の派遣などで生じる費用は、税務上の問題が起こりやすいので注意が必要です。

たとえば、事業との関連性や支出の目的、供与のしかたなどによって、寄附金か交際費等かが区分されます。

●税務調査への備え

確定申告の処理が一段落した7月は、税務署内で人事異動が行なわれます。それから業務の引継ぎ、新事務年度の調査計画の立案、調査法人の選定などを経て、本格的に税務調査に動き始めるため、毎年8月後半から11月は税務調査のピークを迎えます。

新型コロナウイルスの感染拡大が始まった当初、税務署は実地調査を控えていましたが、昨年10月から、実地調査を再開しています。いつ税務調査が来ても問題ないよう、自社の処理を確認し、きちんと説明できるようにしておきましょう。

人事労務

●来春新卒予定者の採用活動

例年どおりであれば、夏休みを利用してインターンシップに参加したり、地元で就職活動をする学生が増えたりと、採用活動が活発になる時期です。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、通常スケジュールでの採用活動は難しくなっています。

直接会って行なう説明会や情報交換は避けたいところなので、オンラインでの情報収集、情報交換に積極的に取り組むことが重要です。

オンラインを活用することで、今まで出会う機会のなかった学生との接点が生まれる可能性もあります。また、コロナ禍が落ち着いても、今後はWeb面接などが定着していくことも考えられますので、導入を検討するといでしょう。

●夏場の健康管理

夏場は疲労がたまりやすい時期です。疲労が原因で業務災害や通勤災害などが発生することを防ぐため、就業中は適度に休憩させるなど、社員の健康管理と安全対策を徹底しましょう。

節電対策で冷房の温度を高めに設定している事業所が多いと思いますが、屋内にいても、脱水症状や熱中症になることがあります。寝不足や不規則な生活も体調不良を起こしやすくなりますので自己管理を徹底させ、テレワーク下では特に仕事中にお互いの健康状態を確認しあいましょう。

マスクはウイルス拡散予防には有効ですが、高温や多湿といった環境下での使用は熱中症のリスクが高くなる恐れがあります。熱中症には例年よりも一層の注意が必要です。

厚生労働省のホームページでは、マスクの着用やエアコンの使用についてなど「新しい生活様式」における熱中症予防行動をまとめています。

●パート・アルバイトのシフト管理

夏物商戦の期間中、パート・アルバイトを増員している企業では、個々のスケジュールを把握して、早めに勤務シフトの調整を行ないましょう。

一定の条件を満たせば、パート・アルバイトにも年次有給休暇を付与する義務が生じます。繁忙期に人手不足に陥って業務に支障が出ないよう、シフトの管理には十分留意してください。

●交通事故発生時の対応確認

2020年の交通事故死者数は全国で2839人（前年比マイナス376

人）でした。交通事故死者数は4年連続で戦後最少を更新しており、初めて3000人を下回りました。

また、全年齢に占める65歳以上の割合は56・2%で、半数以上が高齢者の事故となりました。

死者数は減ってきていますが、悪質・危険な運転による重大な事故が後を絶ちません。安全教育が重点的に行なわれる時期は入社時や事故発生時が多いですが、慣れによる油断、加齢に伴う身体能力や判断力の低下も想定されます。勤務年数や年齢に応じた教育プログラムなど、社内の交通安全教育に力を入れましょう。

また、社員が業務中や通勤途中に交通事故を起こしたり、巻き込まれたった場合の対応（事故直後の対応）などについても、きちんと確認しておきましょう。

総務法務

●売掛金の管理・回収の徹底

年度後半に向けて、与信限度枠の見直し、信用状態のチェックなど、得意先の与信管理を徹底しましょう。

なお、帝国データバンクの調査によ

ると、2020年度の倒産件数は7314件（前年度比13・8%減）と2年ぶりに前年度から減少しました。業種別にみても、全7業種で倒産件数は前年度を下回っており、とくに建設業（1167件、前年度比19・6%減）は、過去最少だった2018年度（1375件）を大きく下回りました。

一方で、サービス業のうち宿泊業は、倒産件数（125件）が前年度から66・7%も増加していて、2011年度以来、過去2番目の高水準です。

コロナ禍で業績の苦しい企業に対する各種資金繰り支援策は続いているものの、小売業を中心に、資金繰り支援を受けた後に経営破たんするケースも散見され、今後、倒産件数が増加に転じる可能性は否定できません。

●得意先や親会社との取引条件の見直し・交渉

大手取引先や親会社から、納入価格の引下げや納期短縮、取引条件の不利な変更などを突然求められることがあります。そうした要請にどう対応するか検討しておく必要があります。

●夏季休暇前後の事務

夏季休暇を実施する企業では、その前後の事務や連絡をミスやモレのないように行ないましょう。

休暇前の業務としては、取引先など

への対外的な挨拶や連絡、休暇中の連絡先の整備などがあります。また、休暇後には、郵便物の関係部署への速やかな配付、社員の勤怠管理の徹底といった業務があります。

また、最近では各担当者の取引先の休暇日程に合わせたり、希望日を個人単位で申請するケースも増えています。休暇中に業務が滞ることがないように注意しましょう。

●建物・設備などの点検・修理

業種や業態にも異なりますが、8月が閑散期にあたる企業では、緊急性はなものの普段なかなか手をつけられないことに着手するのもよいでしょう。

たとえば、建物や設備などの点検・修理があります。不具合があれば、修理や交換の手配を行ないます。

●夏季休暇前の大掃除の実施

夏季休暇の前に、大掃除を行なう企業は多いようです。

「書類等の保存と破棄の基準を決めているか」「ゴミの分別方法は周知したか」「掃除道具は揃っているか」「廃棄物処理業者への手配は済んでいるか」など、やるべきことを1つずつ確認しながら手配を進めます。

●台風等の災害対策

8月から9月にかけては台風シーズンで風水害が多発する時期です。近年

甚大な被害をもたらす自然災害が増えています。気象庁の情報などから先回りして対応できることもあります。あらかじめ具体的な基準を定め、次のポイントを点検しておきましょう。

- ① オフィス・工場での商品・設備の水濡れ防止対策
- ② 緊急時の行動基準の明確化と周知徹底（機械の運転停止、火気の始末、避難場所の指定、ハザードマップによる危険な箇所の確認など）
- ③ 非常用医薬品、備品の追加、確認
- ④ 緊急時に持ち出す重要書類など表示と区分保管の徹底
- ⑤ 緊急連絡網・体制の整備・防災タイムラインの作成

また、コロナ禍では、避難場所での感染症対策も重要です。マスク、ゴミ手袋、消毒液など備品の追加も確認しておきましょう。

現地で安全が確保できる場合は、必ずしも避難所等へ行く必要はありません。同じ建物での垂直避難等について、事前に考えておきましょう。

なお、5月20日よりガイドラインが改定され、「避難勧告」が廃止に、「避難指示」で全員退避となりました。

●防犯体制の点検・整備

オフィス荒らしや放火などに遭うと、金銭的な被害だけでなく、最悪の



民族の音楽 パンソリ

韓国の伝統的な音楽のリズムは長短（チャンダン）と呼ばれる。その特徴は3拍子で独特の味わいを生

む。「語り物」というパンソリは、太鼓の伴奏だけで、扇を使う独特の動作のもと、絞り出すような歌声で物語を歌い語る。ビリビリした音声やゆれ、波をつけた歌いまわしが好まれる。（切絵・文＝前田尊）

場合、社員の生命が脅かされる危険があります。

昨今はITを利用して遠隔操作できる監視カメラやセキュリティシステムもあります。防犯設備等の点検・整備を進めるとともに、日頃から防犯意識を高め、非常時の対応を想定しておきたいものです。

●中元・暑中見舞状の後処理

中元や暑中見舞状をいただいた場合は、礼状を速やかに返信します。立秋（ことしは8月7日）以降に届く場合は「残暑見舞い」となるので注意しましょう。

あわせて贈答記録や顧客名簿と照合し、情報の追加・訂正を行ないます。

●衣替えの準備

10月から衣替えを予定している企業は、事務服などのサイズや必要枚数を確認し、準備に取りかかりましょう。男女雇用機会均等法への配慮や経費削減のため、女性社員の制服を廃止する企業もあります。制服の必要性について検討しましょう。

来月の計画を立てるために

▽9月1日は防災の日（8月30日～9月5日は防災週間）です

▽秋の全国交通安全運動が展開されます（9月21日～30日）